

# 平成24年度 学校法人藤田学園 藤田幼稚園 情報公開

## 1.財務状況

【資金収支計算書】

科 目	決 算 額
収 入 の 部	
学生生徒等納付金収入	52,791,000
寄付金収入	88,000
補助金収入	44,716,000
資産運用収入	367,738
資産売却収入	0
事業収入	15,164,900
雑収入	2,037,661
借入金等収入	0
前受金収入	1,560,000
その他の収入	80,503
内部資金収入	0
資金収入調整勘定	△ 3,810,161
前年度繰越支払資金	44,228,743
収入の部 合 計	157,224,384
支 出 の 部	
人件費支出	74,738,761
経費支出	28,484,091
借入金等利息支出	0
施設関係支出	11,350,000
設備関係支出	0
資産運用支出	10,522,041
その他の支出	266,500
内部資金支出	0
資金支出調整勘定	△ 1,734,161
次年度繰越支払資金	33,597,152
支出の部 合 計	157,224,384

【財産目録】

科 目	金 額
基 本 財 产 計	243,566,355
運 用 財 产 計	44,309,043
資 产 の 部 合 計	287,875,398
固 定 负 債 計	0
流 动 负 債 計	2,959,168
負 債 の 部 合 計	2,959,168
差 引 純 資 产	284,916,230

【消費収支計算書】

科 目	決 算 額
収 入 の 部	
学生生徒等納付金	52,791,000
寄付金	88,000
補助金	44,716,000
資産運用収入	367,738
事業収入	15,164,900
雑収入	2,037,661
帰属 収入 合計	115,165,299
基本金組入額合計	△ 6,718,600
消費収入の部合計	108,446,699
支 出 の 部	
人件費	74,738,761
経費	34,247,578
借入金等利息	0
資産 処分 差額	0
本 部 負 担 金	0
消費支出の部合計	108,986,339
当年度消費支出超過額	△ 539,640
前年度繰越消費収入超過額	△ 12,412,504
翌年度繰越消費支出超過額	△ 12,952,144

【貸借対照表】

科 目	本 年 度 末
資 产 の 部	
固定資産	259,674,909
流動資産	35,147,613
資 产 の 部 合 計	294,822,522
負 債 の 部	
固定負債	0
流動負債	3,727,332
負 債 の 部 合 計	3,727,332
基 本 金 の 部	
第1号 基本金	296,333,662
第4号 基本金	7,713,672
基 本 金 の 部 合 計	304,047,334
消費 収 支 差 額 の 部	
当年度消費支出差額	△ 539,640
前年度までの繰越消費収支差額	△ 12,412,504
消費 収 支 差 額 の 部 合 計	△ 12,952,144
負 債 の 部、基 本 金 の 部、及び消費 収 支 差 額	294,822,522

### 園のコメント

24年度は昨年度の状況を踏まえ、帰属収支差額の比率を回復し、実質4%を上げる事ができた。しかし永続性を図る為にはより努力をしなければならない。また納付金にみる人件費は拡大している、本学の納付金は確かに市内の私立幼稚園においてではもっと低い事もあるが、創始者の経営理念の保護者負担の軽減のもと、よりよい教育を目指す志をもって学園運営を進めることができると自負している。その為には有能な人材の確保が重要であり、現在はここ数年昇給なく身を投じて熱心に教育に打ち込んでくれる教職員に感謝している。また経費においては園児に還元するものの教育活動に直接かかわる物は大胆に、その他の補完的経費についてはマンパワーや節減(エコロジー的)に努めており、教育内容を低下することのないように園が一体となって取り組んでいる。

## 2.事業報告

実施事業の概要は以下のとおりである。

実施月	事 業 内 容
4 月	入園式(7日)・出会いの日(6日)・始業式(9日)・年少懇談会(11日)・年中懇談会(12日) 年長懇談会・PTA総会(13日)・家庭訪問(16~20日)・一日保育開始(23日) 避難訓練(26日)・誕生会(28日)
5 月	こどもの日の集い(2日)・ギョウチュウ検査・尿検査(9~11日)・園児健康診断(15~17日) 親子バス遠足(18日)・ほかほかクラブ(22・23日)・観劇(25日)・誕生会(30日) 避難訓練(31日)
6 月	衣替え(1日)・芋ツル挿し(5日)・歯科検診(7日)PTA役員会(8日)・年中参観日(12日)・年少参観日(20日)・年長参観日(26日)・ほかほかクラブ(13・19日)・避難訓練(29日)・交通安全教室(28日)・誕生会(29日)
7 月	七夕の集い(6日)・ほかほかクラブ(4・10日)・誕生会(13日)・夏祭り(14日)・終業式(20日)・ 宿泊保育(21日22日)・夏期保育(31~8/2)
8 月	夏期保育(7/31~2日・25~27日誕生会)
9 月	始業式・防災訓練(3日)・願書配布(3日)・身体測定(4~7日)・PTA役員会(5日) 入園受付(13日)・誕生会(14日)・避難訓練(21日)・運動会(29日)・ほかほかクラブ(29日)
10 月	衣替え(1日)・誕生会(12日)・子育てフェア(13日)・ほかほかクラブ(16・23日) 年中参観日(16日)・年少参観日(24日)・秋の徒步遠足(26日) 大淵地区文化祭参加(27・28・29日)
11 月	芋ほりやきいも会(6日)・誕生会(9日)・ほかほかクラブ(7・13日)・消防まつり(11日) 走ろう会(16日)・避難訓練(29日)
12 月	遊戯会(4・5・6日)・ほかほかクラブ(11日)・希望面接(10~18日)・誕生会(19日) もちつき会(14日)・クリスマス会(18日)・大掃除(20日)・終業式(21日)・仕事収め(28日)
1 月	始業式(7日)・誕生会(10日)・ほかほかクラブ(16・17日)・年長保育参観と懇談会(18日) ママさんコンサート(21日)・お別れ遠足(24日)・思いで展(30・31日) 避難訓練(22日)・クラス記念写真(9日)
2 月	まめまき会(1日)・ほかほかクラブ修了式(7日)・誕生会(6日)・年中フッ素洗口説明会(7日) 入園準備説明会(9日)・防犯教室(15日)・避難訓練(21日)・PTA役員会(22日) ひなまつり音楽会(27~3/1日)
3 月	ひなまつり音楽会(2/27~1日)・身体測定(5~8日)・誕生会(8日)・避難訓練(11日) お別れ見送り式(12日)・クラス懇談会(14日)・終了式(15日)・第35回卒園式(16日)

# 平成 24 年度 学校関係者評価書及び自己評価総評

## (改善方策及び結果公表シート)

平成 25 年 3 月 1 日 (金)

### 1 幼稚園の教育目標

人間の一生で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響を及ぼす幼児教育は何事をおいても大切な時期である。集団生活の中で幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ね「富士山のように」1.じょうぶでねばりつよい子 2.ゆたかなこころの子 3.どりょくしてつくりだしていく子 4.すすんでとりくめる子を目指し、やがて次代を担う、たくましい人間、豊かな心をもって大きくはばたく人間育成を目標とする。

### 2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 幼児ひとり一人に応じた保育計画が実践されているか。
- 教師が研修や研究に取り組み資質向上に努めているか。
- 保護者との連携を図るため、様々な情報の共有や具体的な活動を実施しているか。
- 地域社会との関わり、自然との関わりが行われる活動を積極的に推進しているか。

### 3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由	関係者評価
①保育の計画性	B	園務は分掌化されており組織的である。教育計画は月案・週日案として作成され園児の実態を反映できるよう実践しながら変更・改善改良するよう努めた。	B
②保育のあり方 幼児への対応	B	幼児ひとり一人の発達課題を総合的にとらえ、その子なりの成長を保管しつつ支援の場面で適切に指導するよう心掛けた。興味・関心・意欲・達成感・葛藤体験を大切にし可能性と心の育みに重点を置いた。	A
③教師として資質 能力、適正等	B	研修会に参加が困難ではあったが手分をして参加する努力とその後の報告により個々の資質を高め合う努力した。また毎月、総務部が教員の目標を提示し全員で取り組めたことはそれぞれの認識・チームワークの向上に繋がった。	B
④保護者への対応	B	保護者からの苦情は無いが、日々の子どもの様子を伝えられない事が多く、保護者の期待に応えられていない事が多いと思う。若年教員とベテランの保護者の格差が生まれないよう先輩教員は指導が重要である。	B
⑤地域の自然や社 会との関わり	B	幼稚園の資源である、人材・施設を地域に提供し貢献を図っている。ひだまりの森の整備には大淵地区町内会連合会のご支援を頂いた。よって今後も地域に還元できる	A

⑥研修と研究	B	園内研修の時間の確保が難しい。子育て支援や幼稚園が担う事が増大している。教員の就業時間にその研修研究の時間の確保が課題である。	B
(補) 外部アンケート		2月22日〆切の為、3月の役員会に報告する。	

結果・評価 A 十分達成されている      B 達成されている  
C 取り組まれているが成果が十分でない      D 取り組みが不十分である

#### 4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

園目標であった、「つながりあう心」と、教育テーマ「ひだまりの森」を通じ、計画性ある保育の実践ができ、最終的には思い出展覧会でそのテーマと目標を具現化した展示ができたことは大きな成果であつた。また地域にあっては、恒例の行事や要請に積極的にかかわり、地域の中で園児達を見守り育ていただけるよう地域貢献を進めた。また東日本大震災から岩手県大槌町のみどり幼稚園とのつながりを大切にこれからもできる事を継続していきたい。また幼稚園教育を実践するにあたり、地域との連携と保護者（家庭）との信頼関係を強化していく事は何よりも大切であり、今後も本園の教育経営の柱としていく。

#### 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教職員の資質向上	研究内容の検討を行い、時間を要せず効果的な研究を進めるよう工夫する。 子育て相談や子育て支援に対する知識・技能の研鑽を積みたい。
ひだまりの森の活用	環境教育の実践の場として大いに活用する。また地域社会とのつながりの強化を図るためひだまりの森の施設開放など様々な実践を考えていく。
こころの教育	全てが心の育を誘発することの意味を幼児教育者としての自覚をもって幼稚園教育にとりくむ。

#### 6 学校関係者評価委員会からのコメント

- 幼稚園の行事に参加して、子ども達が楽しく生活していることが分かってうれしいかった。
- 大震災の後も3年目になるが被災された幼稚園とのお付き合いがあり、この事だけでも幼稚園の先生達が大切にしているものが子ども達に育ってくれたらいいなと思った。
- PTA活動は役員がとてもまとまり、充実した園行事・PTA事業が展開できたと思う。また、親御さん同士が役員を選出するシステムが続き、これも地域の連帯をつくり、その後の学校へ繋がっていること自負できる。(昨年度評価と同じコメント)
- 地域活動や様々な団体と連携して、交通教室、防犯教室、ママさんバンド、ワンワンサーカスなどその他にも機動力ある事を沢山実施され子どもも良い経験ができていると感じる。
- 来年度は園児数が減ると聞き心配している、幼稚園の経営を頑張ってほしいと思う。
- いろいろと大変だと思うが藤田幼稚園が発展してほしい、卒園児の為にも。